vinetur

サンパウロ州の飲食店支出、9月は7.5%減の87億レアル

2026年で最も好調だった月の後、サンパウロ州の飲食店支出は9月に減少。9月までの実質成長率は8.6%だった

2026年11月14日（土）



ブラジルのサンパウロ州では、バーやレストランでの支出が9月に前月比7.5%減少し、名目売上高は約87億レアルとなった。年間ベースでは成長が続いているものの、飲食業界の事業者が直面する月ごとの需要の不安定さが浮き彫りになった。

ブラジル飲食店協会（ANR）は11月13日（金）に発表した分析で、Mastercard SpendingPulseのデータを引用し、9月の減少は2026年でここまで最も好調だった月の後に生じたと述べた。8月の名目支出は94億レアル近くに達していた。協会によると、好調な売上が続いた後、わずか1カ月で収入の基盤が縮小したことは、飲食店やバーの事業者にとって重要だ。資金繰りや事業計画への圧力が強まるためだという。

ANRによると、年初からの9カ月間を通じた状況は引き続き好調だった。同協会の分析では、サンパウロ州のバーやレストランは1～9月に前年同期比で実質8.6%成長した。州内の小売業種の中では、

自動車燃料の18.0%に次ぐ2番目の高い伸びで、ドラッグストア・美容関連の6.8%を上回った。分析によると、同期間のサンパウロ州全体の小売業は5.2%成長した。

同協会は、この比較から、対象期間中の外食市場が州全体の小売市場のほぼ2倍のペースで拡大したことが分かると指摘した。一方で、年間成長率だけでは、毎月業界を実際に動く資金の大きな変動が見えにくいとも警告した。分析によると、2026年のバーやレストランの名目支出は78億～94億レアルの間で変動し、月ごとに一貫した傾向は見られなかった。

年間成長率の推移にもばらつきがあった。ANRによると、業界の成長率は4月に14%近くまで上昇した後、6月には8%を下回り、年間で最も低い水準となった。その後、9月には8.6%に回復した。同協会は、この推移について、基調としては成長しているものの、業界の事業環境が季節性や特定の日程に左右されやすいことを示していると述べた。

飲食事業者にとって、年間成長率と月ごとの売上高の違いは重要だ。前年同期比の高い伸びは市場がなお拡大していることを示す一方、仕入れ代金や賃金、家賃は当月の収入から支払うことになる。そのため、9月の減少は、前年同期との比較が好調でも、消費者需要の短期的な変動がなくなるわけではないことを示している。

ANRの分析は、サンパウロ州内の地域差の大きさも指摘した。サンパウロ地域は10.7%増と最も高い伸びを記録し、州全体の平均を押し上げる主な要因になったという。内陸部では、サン・ジョゼ・ド・リオ・プレトが9.3%増、アラサトゥーバが7.4%増だった。プレジデンテ・プルデンテは6.8%増、リベイラン・プレトは6.6%増、バウルは5.9%増となり、より安定したものの伸びは比較的緩やかだった。

最も低い伸びとなったのはサン・ジョゼ・ドス・カンポスで、業界の成長率は2.0%と州平均を大きく下回った。ANRによると、こうした地域差は、サンパウロ州のレストランやバーの事業が一様に推移しているわけではなく、地域ごとの経済状況が引き続き業績を左右していることを示す。複数都市で事業を展開する企業にとっては、州全体の平均だけでなく、地域の需要を踏まえて出店や価格設定の戦略を練る必要があることを示唆している。

ANRによると、実質成長率の推計は、Mastercard　SpendingPulseが公表した名目成長率を基に、IBGE/SIDRAのデータから算出した業界の推定インフレ率を加味して行った。同協会は、SpendingPulseが名目成長率を示すものであり、自動的にインフレ調整を行うわけではないと説明した。分析で引用した手法によると、Mastercard SpendingPulseは、対象市場における複数の決済手段の集計・匿名化データを用いて小売売上高を測定する。

今回の数値からは、サンパウロ州のレストラン・バー業界が複雑な局面にあることがうかがえる。2026年の大半で市場は小売業全体を上回る成長を見せた一方、9月の名目支出の減少は、全体として拡大する年であっても、売上高が月ごとに急変し得ることを示している。